

第13回死の臨床研究会の記録

シンポジウム

在宅で死を迎えるために
趣旨のまとめ
家族の立場から
医師の立場から
訪問患者の立場から
訪問患者の立場から

鈴木 壯一、他・1
石丸 直見・2
小笠原 道夫・4
紅林 みつ子・6
高沢 洋子・8

ワークショップ

死別後の家族への援助
まとめ
心身医学の立場から
精神医学の立場から
看護の立場から
突然の死と看取れた死
子をなくした親へのかかわり
遺族の心のペインクリニック
死別後のケアにかかわる時の専門職者の課題

アルフォンズ・デーケン、他・11
河野 友信・12
平山 正実・14
小島 操子・16
池田 恵理子・19
荒井 順子・21
柏木 哲夫・23
生田 チサト・25

要望演題

ガン終末期における症状コントロール
討議まとめ
コメント
コメント
一般病院におけるターミナルケア
討議要旨
コメント
コメント
医療関係者のためのターミナルケアの教育
討議要旨
コメント
コメント

中島 美和子、他・28
武田 文和・29
柿川 房子・31

村上 国男、他・34
福間 誠之・35
吉村 京子・37

水口 公信、他・38
岡安 大仁・38
渋谷 優子・40

原著

地域を中心としたターミナルケア
-施設ケアから地域ケアへ
根治療法困難な癌患者の転院について
-遺族アンケート調査から
ターミナルケアに於けるステロイド剤の有用性について
-ホスピスでの経験から

鈴木 莊一、他・42

卿地 秀雄、他・50

林 章敏、他・57

第22回死の臨床研究会の記録

特別講演

死の臨床への関わり

水口公信

教育講演

高齢者の生きがいと死 ―心の病を診る立場から―

松下正明

基調講演

Breaking Bad News ―「悪い知らせ」を伝える実践的方法論―

Peter Kaye

シンポジウム

高齢者と死の臨床

司会を担当して

- 1 行政の立場から
- 2 電話相談と臨床仏教学 ―「ダイヤルフレンド」とビハーラ活動―
- 3 21世紀における県立ホスピスの役割と高齢化社会
―ホスピス開設9カ月間の概況と今後の展望―
- 4 看護の立場から

柿川房子 三木浩司

松谷有希雄

西条武治

佐藤英俊

川島みどり

ランチョンセッション

- 1 緩和ケアにおけるセデーション
- 2 老いを豊かに生きる
- 3 高齢者と『死への準備教育』

星野一正

柏木哲夫

アルフォンス・デーケン

事例検討

- 1 大学病院における末期患者へのチームアプローチの中での看護婦の役割
- 2 “安楽死”を希望する高齢者への対応
- 3 転移性肺がん末期の患者のQOLを支える援助
- 4 一般病棟で行なう在宅医療の限界を感じた終末期胃がん症例
- 5 症状コントロールが困難な患者のQOLを考える
―終末期に一時退院を試みた症例を通して―
- 6 ホスピスにおける音楽療法の実際
―音楽療法からクリエイティブ・セラピー「創造療法」の可能性について―
- 7 意識障害を伴う患者の緩和ケア
- 8 予後不良をわきまえた看護婦の主婦の音楽療法の有効例の報告
- 9 終末期医療におけるパターンリズムの意義と問題点
- 10 父親の死を受容できないまま経過したT氏のケア
―T氏と面談を重ねて―
- 11 「生きることはとっても辛い事です」に込められた思い
- 12 末期癌患者の心の揺れ ―医療者の関わりを通して―

高宮有介 皆川智子

隅 寛二 大西和子

山室 誠 渡辺寧子

平賀一陽 近藤まゆみ

恒藤 暁 長谷川朝子

沖原由美子 渡辺 正

田村恵子 中木嵩夫

形浦昭克 西森三保子

阿蘇品スミ子 堀 泰裕

辻 悟 川名典子

澤田愛子 河野友信

平山正実 松島たつ子

教育セミナー

死の臨床とコミュニケーション

柿川房子

原著

- 1 大学病院医師の死生観とターミナル・ケアにおける講堂や意識との関連
- 2 現代青年の臓器提供意思への影響要因に関する研究
- 3 末期がん患者における
少量フェノバルビタールの持続皮下注入によるconscious sedation
- 4 緩和ケアにおける家族・医療者間葛藤に関する予備的調査
- 5 がん患者を抱える家族のQOL
- 6 エイズ患者の遺族のケア: 死別カウンセリング
- 7 生前からの家族介入が遺族のグリーフ・ワークに与える影響

十時のぞみ

中西健二

茅根義和

森田達也

守田美奈子

矢永由美子

戸井間充子

第21回死の臨床研究会の記録

特別講演

私にとっての尊厳ある死 柳田邦夫 003

教育講演

- 1 思春期までの子供の死と私たち 細谷亮太 006
- 2 ターミナルケアにおけるセデーションの現状と課題 恒藤 暁 008
- 3 地域における在宅ホスピスケア 川越博美 011
- 4 死別経験者の心の癒しー災害による喪失と悲嘆を中心にー 高木慶子 014
- 5 がん患者の痛みの治療 平賀一陽 016
- 6 ターミナルケアの音楽療法 篠田知璋 018

シンポジウム

- 「死への準備教育」ーよりよく生きるためにー
- 1 「死への準備教育」をめぐる世界の現状と今後の日本への提言 アルフォンス・デーケン 021
 - 2 死別経験者へのグリーフ・ケア 平山正実 022
 - 3 Doingの世界からBeingの世界へー先立ち逝く方から学ぶものー 鈴木秀子 024
 - 4 私も心おきなく死ねる!?!ー私にとっての死への準備教育ー 馬場昌子 025

パネルディスカッション

- ターミナルケアと市民運動 027
- 1 終末期医療における精神的・宗教的援助 大下大圓 027
 - 2 あいちホスピス研究会 永井昭代 028
 - 3 “死”との出会いから学ぶもの 土生谷 進 030
 - 4 身近な死別体験の分かち合いにおける癒し 小谷小枝子 031
- まとめ 河原啓美 水野金一郎 032

事例検討

- 1 がんによる終末期を「“一瞬”“一瞬”輝くいのちに支えられて」、希望をもって生き抜いた症例 柏木哲夫 沖原由実子 035
- 2 終末期卵巣がん患者への看護援助 山崎章朗 渡会丹和子 036
ー卒後3年目の受け持ち看護婦の学び
- 3 がん患者とその妻へのカウンセリング的接近について 澤田愛子 三木浩司 038
ー心理面接は患者と妻の心を癒すことが可能だろうかー
- 4 傾眠傾向の強い患者のQOLを考える 渡辺孝子 前野 宏 040
- 5 未熟な患者と頑にがん告知を拒否する父親と過ごした終末期 河野博臣 西森三保子 041
ー安易なインフォームド・コンセントムーブに対する問いかけ
- 6 根源的苦悩とコミュニケーション 藤腹明子 辻 悟 042
- 7 がんを否認し、がんであることを希望し続けた 阿蘇品スミ子
終末期がん患者への対応について □□ 水野金一郎 044
- 8 一般病棟における末期がん患者への外泊時の看護 高宮有介 田村恵子 045
- 9 かつこよく死にたいと願ったM氏 志真泰夫 磯崎千枝子
- 10 末期がん患者の生きがいを見い出す援助としての音楽療法 藤田知璋 佐藤禮子 048
ーホスピスでの音楽療法のありかたー
- 11 末期患者を持った家族への援助 石森携子 村上國男 049
ー家族の想いを看護に生かすためにー
- 12 「真に哲学するものは死ぬことを習う」 谷 莊吉 柿川房子 051
ー哲学的な生き方をしたT氏からのメッセージ

教育セミナー

死の臨床とコミュニケーション 柿川房子・他 053

原著

- 1 介護福祉士養成教育における生命意識に関する意識調査 坂谷裕子 055

2 消化管閉鎖のある末期がん患者の特徴とその管理	池永昌之・他 064
3 病気を契機として浮上した家族間葛藤への心理学的アプローチ －Solution-Focused Approachの活用	田中 仁・他 071
4 末期がん患者の希望に関する研究－希望の内容と 入院経過に伴う変化に焦点を当てて－	中 恵美子・他 076

第20回死の臨床研究会の記録

会談

岡安大仁 河野博臣 水口公信 003

特別講演

The Melbourne Family Grief Study

David Kissane 010

シンポジウム

21世紀の死の迎えかた

- 1 「文化としての死」の復権
- 2 死を大事にする社会と文化の創造を
- 3 死を自分の足で歩いていって辿り着く休息所

立川昭二 019
柳田邦夫 021
ワット隆子 022

特別発言

- 1 看取られる立場・看取る立場を重ねて考える
- 2 21世紀を迎えて

季羽倭文字 025
水口公信 026

事例検討

- 1 がん末期の患者さんの治療について
- 2 呼吸苦が急性悪化した一症例一
- 3 「もう終わりにしたい」一精神的苦痛から
持続鎮痛を始めるときの医療者の葛藤
- 4 人工呼吸器装着中の頸椎腫瘍末期患者が
その人らしく生きることへの援助
- 5 「機械を外してください」
一人の自己決定を支えるためにスタッフは、どう関わったのか一
- 6 終末期患者に対して完治を信じた家族への援助について
- 7 末期がん患者の死に対する心の葛藤一自殺した事例を検討して一

篠田知 028
山室 誠 028
河野友信 030
西森三保子 031
渡辺孝子 033
深瀬須加子 035
末松弘行 037

教育セミナー

- ターミナルケアにおける効果的な継続教育のありかた
一日本死の臨床研究会教育セミナーでの実践的試み

柿川房子・他 039

原著

- 1 農村社会における死別高齢者の悲観と回復
- 2 ホスピスケアの満足度と遺族の悲観
- 3 家族・スタッフがもたらす精神的安楽一末期がん患者の視点を通して
- 4 症状・日常生活統合ストア(IDA score)
を用いた終末期患者における症状緩和の予後因子の検討
- 5 フェンタニルの持続皮下注射によるがん性疼痛の治療
- 6 総合病院における望ましい緩和医療の理解に関する研究
- 7 がん患者死亡例の臨床的検証

澤田愛子 043
小沢竹俊 048
坂口幸弘・他 053
石黒浩史・他 059
細井 順・他 064
河瀬雅紀・他 068
丸岡正幸 073

第19回死の臨床研究会の記録

特別講演

「児童文学のなかの死」

河合隼雄 003

教育講演

「エイズを取り巻く喪失と生の価値」

馬場 萌 010

シンポジウム

ターミナルケアの向ける患者の眼差し」

最後まで“私らしさが”尊重されるため

家族とともに在宅での看取りとケアワーカーの働き—

3ナイ主義の訪問リハビリ

我々は患者のニーズを把握しているだろうか？

—その人らしさを支えるために—

ターミナルケアに向ける患者の眼差し

—訪問看護婦としての立場から—

総合コメント

辻本好子 013

宮田充子 014

西村久代 016

磯崎千枝子 017

秋山正子 020

石森携子・中木高生 022

事例検討

I ターミナル前期から始まる鎮静の意義

—予後6ヶ月から“眠らせて”と訴え続けた症例を通じて—

辻 悟・小松万喜子 023

II 介護者の不安に対するチームアプローチ

藤腹明子 024

III 筋萎縮性側索硬化症(ALS)のターミナルケア

—経管栄養を希望しなかった患者のケアを通じて

岡安大仁・深瀬須加子 026

IV ぎりぎりまで、在宅で過ごし最期を

病院で迎える患者を看取るとき

村上國雄・柿川房子 027

V 未熟児医療におけるQOL

VI 小児のターミナルケアにおける難治性癌性疼痛の治療

澤田愛子・河野友信 029

VII モルヒネの増量に抵抗を示す患者への援助

平賀一陽・渡辺孝子 031

VIII 投身自殺した患者の援助を考える

山室 誠・小松浩子 032

IX 終末期患者の心理的变化について

柏木哲夫・田村恵子 033

X 「少しでも子供のそばにいたい」

山崎章朗・藤木雅清 035

—ターミナル期における乳癌患者のQOLを支えて

緩和ケア病棟入院から在宅へ—

河野博臣・季羽倭文子 036

原著

1 がん告知を受けた患者の主体的ながんと共生を支える

援助プログラムの開発に関する研究

(1)告知に関連した患者の困難とその対処に関する分析

小松浩子・小島操子

——・渡辺真弓他 039

2 緩和ケア病棟における長期入院患者の検討

宮地ますみ・志真泰男

——・丸口ミサエ 045

3 末期癌患者の消化管閉鎖に対するオクトレオチドの効果

前野 宏・池永昌之

——・須藤 暁他 049

4 ホスピスにおけるスピリチュアルペインとケアの実態

高橋 恵・原 昌子

——・下稲葉かおり他 053

5 緩和ケア病棟における在宅電話サービスの現状と問題点

関 百合子・志真泰男

——・丸口ミサエ他 057

第18回死の臨床研究会の記録

特別講演

「共に生きる」 一条智光 001

基調講演

「ホスピスの原点に還って」－死者の側よりみたホスピスケア 河野博臣 004

シンポジウムⅠ

「患者さんが過ごす場(建築等)を考える
「死の質」とこれからの病院建築 カール・ベッカー 007
ホスピス設計の始めに 田中 喬 009
普段着としての病室づくり 山本和恵 011
生活の場として病院を考える 小田式子 012
総合コメント 松本啓俊 014

シンポジウムⅡ

「日本のホスピスとPCUはどこがちがうか」
私のめざす緩和ケアとは 高宮有介 015
ホスピスケアは私の挑戦テーマ 須部由実子 017
QOLの向上をめざす全人的ケア 下稲葉康之 018
総合コメント 川宮 仁・藤腹明子 019

症例検討

1 家族が告知を希望しなかった一症例 村上國男 021
2 本音で語り合えない患者・家族のケアを考える 辻 悟 022
―――帰宅を希望した患者とそれを 谷 莊吉 024
―――受け入れられなかった患者家族への援助
4 一般病院における癌患者を看護して 柿川房子 025
－患者が感じる満足感を高められる看護をして－
5 スタッフに強い依存を示し家族を拒否し続けた一症例 志真泰夫 027
6 ホスピスケアについての再検討 季羽倭文字 028
7 在宅での看取りを断念せざるを得なかった 神代尚芳 029
－例からその要因を考える
8 患者－医療者間コミュニケーションの分析 河野友信 031
－在宅癌患者との面接を通して
9 治療停止を選択した2症例に対する精神的ケアの検討 西森三保子 032
10 転移性胸椎腫瘍による下半身麻痺を来した僧職者の反応 隈 寛辞 034

原著

1 癌患者への病名告知の現状と患者 杉本正子・山口利子 035
－看護学生への調査から－
2 がん患者の病気の意味を身いだしていくプロセスに関する研究 片平好重 041
3 死亡直前における末期癌患者の耐え難い苦痛に いかに対処するか？
－鎮痛の必要性－(池永昌之・恒藤 暁・前野 宏・柏木哲夫)048
4 日本の看護婦の癌疼痛治療についての意識の現状 渡辺孝子・武田文和 Margo MacCaffery・Beccy R Ferri 054

第17回死の臨床研究会の記録

特別講演

- | | |
|----------------------------|--------------|
| 1 「死をどう生きたか」—忘れられない患者から学ぶ— | 日野原重明 001 |
| 2 ターミナルケアにおけるチームアプローチ | 石垣靖子 005 |
| 3 ターミナルケアにおける論理的側面 | アン・デーヴィス 008 |

シンポジウム I

- | | |
|---|----------|
| 「ターミナルケアにおける論理的諸問題」
医師や看護婦がターミナルケアを提供する
医療チームの一員としておうべき責任 | 中木高夫 018 |
| 安らかな死を援助する為の看護とは何か | 澤田愛子 022 |
| 患者の権利の視座 | 鈴木利 024 |
| 患者のニーズに応える医療を | 吉田文弘 025 |
| 総合コメント | 山崎章朗 026 |

シンポジウム II

- | | |
|--|---|
| 「生を支える」
「生を支える」死の臨床のわざとこころ
その人らしさを支えるケア
がん告知後を支える
総合コメント | 河野友信 029
大内裕子 031
季羽倭文子 032
小島操子 034 |
|--|---|

症例検討

- | | |
|---|------------|
| 1 臨床におけるSpirituai Carenituitleについて | 平山政実 036 |
| 2 日常的欲求を多く出す終末期患者と看護婦の葛藤 | 阿蘇品スミ子 037 |
| 3 患者をあるがままに受け入れるためには | 川名典子 039 |
| <input type="checkbox"/> —自分の殻に閉じこもっている患者のQOLをさぐって— | 河野博臣 040 |
| 4 家族からみた在宅ターミナルケア | |
| 5 ALS患者で人工呼吸器を最後まで拒否続けたIさんからの—考察— | 庄司進一 042 |
| 6 死を望んでいた患者の援助を通じて—死の受容への考察— | 馬場昌子 043 |
| 7 精神分裂病に白血病を併発をした—症例 | 柏木哲夫 045 |
| 8 在宅ターミナルケアが困難であった—例 | 卿地秀夫 046 |
| 9 死亡前の外泊をめぐる—ホスピスのQOLの実現 | 恒藤 暁 048 |
| 10 救急医療にかかわる看護職への死の準備教育
—突然死(交通事故)の家族への対応— | 小松玲子 049 |
| 11 ホスピスケアにおける和解への取り組み | 島田妙子 050 |

原著

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 癌告知に関する研究—告知患者のアンケート調査から— | 丸岡正幸 長山忠雄 |
| 2 HIV感染症症例の心理的検討—8症例の経験から—
(小西 満・森 啓・前田光一・三笠圭一
澤木正好・成田亘啓・今井充子・吉岡 章) | 053 |
| 3 ホスピスにおける睡眠の意義—看護問題を調査して— | 059
内之浦直美 新居美智子
多田紀子 原 昌子 |

第16回死の臨床研究会の記録

特別公演

ホスピスの現状と課題
全人的がん治療
これからの終末期医療

下稲葉康之 001
河野友信 003
日野原重明 005

シンポジウム I

出会いの場としての相即をめぐって
相即の医療
出会いということ
東西の接点
総合コメント

本田正昭 013
藤江良郎 008
古川泰龍 010
池見酉次郎 012
本田正昭 013

シンポジウム II

ターミナルケアの教育
家族に対しても十分な準備教育を
医師教育の立場から
看護婦の教育の立場より
臨床の現場における看護婦の教育
ホスピスボランティア教育について

阿蘇品スミ子 016
波多江伸子 017
増田康治 019
松尾典子 021
糸永幸子 024
広瀬典子 026

パネルディスカッション

ホスピス患者をめぐっての意識
全国ホスピスの患者をめぐる調査
ホスピス患者をめぐっての意識調査
がん医療における緩和ケア病棟の役割
ホスピス患者をめぐっての意識調査
ホスピス患者をめぐっての意識
ホスピス患者をめぐっての意識調査
ホスピス患者をめぐっての意識調査

藤江良朗 029
宗像恒次、他 030
石森携子 032
小池眞規子 034
高田陽子 036
須部由美子 037
森山健也 038
山崎章朗 040

症例検討

I 在宅ホスピスケア
II コミュニケーション
III チームアプローチ
IV 訪問看護と在宅死
V 在宅ケアとペイントコントロール
VI コミュニケーションとQOL
VII 在宅ケアと自殺
VIII 老人ホームでの終末期ケア

季羽倭文子 042
玉井 一 043
辻 悟 044
加藤恒夫 046
紅林みつ子 048
木場富喜 094
川越 厚 050
奈倉道隆 051

原著

ホスピスにおける遺族ケア

054

(大内裕子 加藤佳子 内田直美 大村基子)

胆道閉鎖症患児における終末期の治療経験
告知を受けた肺癌患者、家族の認識

千葉庸夫 059
065

(美好美佳 植原早苗 飯塚京子 長谷川由季 伊藤富美子 田村由紀子 富山静子)

がん病院における鍼灸治療の経過と現状

070
横川陽子 平賀一陽

第15回死の臨床研究会の記録

教育公演

死の臨床と精神医学の接点

辻 悟・1

特別公演

ターミナルケアの将来

アンソニー・M・スミス・6

シンポジウム I

患者・家族とのコミュニケーション

趣旨とまとめ

患者の心について

患者・家族とのコミュニケーション

ナースの立場から

医療ソーシャルワーカーの立場から

柏木 哲夫・15

成田 善弘・16

上野 轟・18

石森 携子・20

シンポジウム II

ターミナルケアに携わる人の教育

趣旨とまとめ

医療へのターミナルケア教育

ターミナルケアに携わる人の教育

ターミナルケアに携わる人の教育

ビハーラ僧養成を中心にして

藤腹 明子・24

福間 誠之・25

岸田 貞子・27

吉川 真・29

田宮 仁・31

事例検討

I 在宅ケア

II 結婚をひかえた死

III 話し合い、家族ケア

IV 告知

V 宗教

VI 突然の喪失体験

季羽倭文字・34

西森三保子・35

辻 悟・36

吉村 京子・37

山崎 章朗・38

松原 秀樹・39

原著

ホスピスにおける家族ケア

——遺族へのアンケート結果を活用して——

悪性疾患と小児患者への説明

ターミナルケア従事者の教育

——ビハーラにおける看護者の養成(教育計画案)を中心として——

大学病院でターミナルケアは可能か？

——ターミナルケアにおける大学病院の役割——

苦しいときの遊びの効果

ターミナルケアにおける大量皮下注の有効性について

段階的告知における中間的病名の意義

——がん受容の準備状態の指標としての有効性

一般病棟におけるホスピスケアの試み

和田 恵子, 他・41

小澤 美和, 他・47

藤腹 明子, 他・53

高宮 有介, 他・59

甲斐 一孝, 他・66

林 彰敏, 他・71

須田 啓一・75

梁 勝則, 他・79

第14回死の臨床研究会の記録

シンポジウム I

高齢者のターミナルケア

趣旨とまとめ

杉山 善朗、他・1

内科臨床医の立場から

近藤 文衛・2

老人の死に対する態度に行いて

吉沢 勲・5

自然な死を考える

宮本 克子・7

看護職の立場から

千旧 徳子・9

老年期痴呆特にアルツハイマー病のターミナル・ケア

金子 仁朗・11

シンポジウム II

死の受容—東西霊性交流の立場から

趣旨とまとめ

藤江 良朗・14

死は救えるか

古川 泰龍・15

死の受容

本多 正昭・18

シンポジウム III

日本におけるホスピスの現状と課題

趣旨とまとめ

柏木 哲夫・23

欧米におけるホスピスの動向

アルフォンス・デーケン・23

新しくホスピスを開棟して

飯沼 幸子・25

患者の立場から

望月 純一郎・27

臨床心理の立場から

白井 幸子・29

厚生行政の立場から

田中 慶司・35

生涯教育講座

自己の探求—ケアの実践のために

鈴木 秀子・37

原著

総合病院精神科における終末期老人患者へのターミナルケア

柴崎純一、他・65

ナースコールの工夫(音声感知型ナースコール)による

山内 智子、他・71

四肢麻痺患者の看護

器具の工夫で疼痛が軽減できた1事例を通して

松岡 寿夫・84

終末期がん患者に対する症状コントロールとしての外科的治療

横川 陽子、他・88

鍼灸治療とがん患者の気分の変化

有床診療所における終末治療

—地域多職種アプローチの成果の検討と今後の展望

加藤 恒男・94

終末期がん患者の医療における精神科連携診療の実態

—全国実態調査から

内富 庸介、他・104

終のすみか、老人ホームの目指す看取り

—終末ケアの試みと提言

小西 靖子、他・104

癌患者の在宅ターミナルケア

—家庭医の果たす役割

川越 厚、他・108